

# 生涯学習だより



## 「実りが育む『あき』……実りに感謝」

年間テーマ

私のまちは80歳 ～かみしほろの現在・過去・未来～

### ぬかびら温泉のはじまり

ぬかびら温泉は上士幌町の北西に位置し、大雪山国立公園の中にある自然豊かな温泉・観光地です。2007年にはぬかびら源泉郷旅館組合が「源泉かけ流し宣言」を発表しています。その後2009年には「糠平」という地名を「ぬかびら源泉郷」に変更しました。今回はこのぬかびら温泉のはじまりを、発見当時の記録『糠平温泉発見の動機と沿革』よりご紹介します。

ぬかびら温泉は1919（大正8）年3月に湯元館の初代館主であった島<sup>しま</sup>隆美<sup>たかみ</sup>氏が発見したことにより始まります。島氏は前年の1918（大正7）年にも勢多の温泉を発見しています。勢多の温泉は浴用鉱泉として許可を得ていましたが、摂氏30℃の温度の低い鉱泉であったため、火熱を加えなくてはなりませんでした。そこで島氏は勢多の温泉に掘削を行ってより熱い湯を探索しようと考えていました。そんな中、島氏は勢多から24kmほど奥地「糠平」というところに、卵が茹で上がるくらいの温度で良質な湯があることを知人から聞き、現地調査に行くこととなります。



島 隆美 氏



大正13年ころの様子

1919（大正8）年3月、甥の荒<sup>あらか</sup>長治郎<sup>ちやうじろう</sup>氏と共に島氏は糠平行きを敢行します。このとき2度目の挑戦でした。一行はエゾマツやトドマツが生い茂る原始林の中に馬を進め、途中に立ちはだかる断崖絶壁の光景に驚愕したことが記されています。これより先は馬が進めず、馬を造材小屋に頼み、一同はかんじきを履き歩いて奥地へと進んで行くこととなります。この日は糠平までたどり着けず、雪の中にも関わらず密林の中で野宿しています。倒木などの燃料を十分確保し暖をとり、極寒中にもかかわらず疲労のため朝まで寝入ってしまった様です。翌朝、出発してすぐに立木が少なくヨシなどが生えている小沢に到着し

ました。そこは湯煙が立ち、まさに温泉というたたくまです。しかし、島氏は聞いていた話と位置や湯の量が違ったため疑問に思い、更に探索を続けることにしました。

すると、これより約270m西に湯元を発見することができました。これが後に滝の湯（湯の元）温泉（現在の湯元館）と称されることとなります。その後、温泉までの道路を開削することとなりますが、約2.6kmにわたる道路完成まで人員も多大でした。また開業に至るまで様々な許可手続きがあり、大変な苦労があったと記録に残されています。そして1925（大正14）年に湯元館が開業し、ここにぬかびら温泉の歴史が始まりました。



昭和10年ころの様子

（取材協力—湯元館）

# 私のまちは80歳、私の歳も80歳

今年で開町80周年を迎えた上士幌町。今年度の【生涯学習だより】は、【私のまちは80歳】のテーマのもとに編集をしています。そこで、本町にお住まいで80代で元気に活動されている方々を紹介します。

## 書くことの楽しさ

私は町長職時代に役場で、道路橋梁、記念碑などが竣工すると名版や碑文を書くことがたびたびありました。役場庁舎前庭の開町50周年記念碑「みどりの大地」もそのひとつですが、いつも得心の字が書けずに苦心していました。



ある日、上士幌高校の卒業式に参列する機会があって会場に案内され、一番先に目に入ったのが、『第〇回上士幌高等学校卒業式』と墨痕たくましく書かれた字幕でした。卒業を祝福し激励する感情こめた字姿の書を拝見し、大きな感動を覚えました。

その感動がきっかけとなり、老後の生涯学習のひとつに書道を取り入れる決意をしました。65歳から改めて書道を習い始め、今年で18年になります。「北海道書道教育研究会」に毎月出展したり、「毎日書道展」「創玄書道展」「書創展」「町民文化祭」などにも出展し、これらの出展を目標に努力しているところですが、まだまだ感動を与える書には到達できません。書道は脳の活性化につながり、認知症の予防、美意識の改善にも役立っているのではと思っています。若い方はもちろんのこと、老後の趣味のひとつとして、一緒に書を楽しめたら…、と思っています。

高橋 正一



## ファインダーをとおして見た上士幌の魅力 ～柏の会の活動より～

老人写真サークル「柏の会」は、昨年創設30周年を迎えて、多岐にわたり記念行事を実施し、諸先輩のためまざる努力と情熱あふれる実践力の賜物と、再認識をしました。

「柏の会」は、現在32名の会員で、毎月、役場・農協・信金・郵便局・特養・信組の6ヶ所の各ロビーに展示し、文化祭や当会のコンテスト結果の展示など、文化活動の一端を担っています。写真は、会員各々の個性の豊かさを主張しつつ、豊富な題材の特徴を表現するように心がけています。

最近では、撮影機材が近代化され、特にデジタルカメラの多様性は想像を絶するほどで、写真は「芸術作品」となることが可能になりましたが、あくまでも写美への追及の心は変わりません。



信金の展示

また、「柏の会」は、撮影旅行に行っています。今年は、知床方面への一泊研修に行ったり、上湧別のチューリップを撮影する一日研修など、以前よりは縮小されていますが、和気あいあいの楽しい旅となっています。

そして、自然豊かな我がまち上士幌に住んでいると、ファインダーを通して四季の区別がはっきりとわかるこの地に喜びを感じることが出来ます。会員相互の融和と協調で、本町の文化活動の伸展に役立てるよう、一層の努力をしていきたいと考えています。町民の方で興味がありましたら、気軽に当会に参加して下さいませよう、心よりお待ちしております。

新木 正巳



## ものづくり(手芸)を通じた仲間との絆

### ～生きがいセンター手芸サークルの活動より～

26年前、生きがいセンターが出来て、当時の職員の方に「何かやってみては？」と言われたのがきっかけとなり、2～3人で手芸を始めました。

一言に「手芸」と言っても、「手芸」で作るものの種類は、多岐にわたります。最初は、「パッチワーク」、「タペストリー」、「おてもと(箸袋)」などからはじめました。

その後月形まで、ドライフラワー作りの講習に行き、沢山のドライフラワーも作りました。

そんな活動を始めていくうちに、平成5年ころに「気球の町なので、気球に関する何かができないか」と夫から言われ、どんなものが出来るか試行錯誤のすえ、現在の『ミニバルーン』が出来上がりました。

この『ミニバルーン』を作るために、香りに使うラベンダーは富良野まで取りに、かごの部分は電話線を利用したり、色々趣向を凝らしました。



ミニバルーン

交通安全の呼び掛け時には、札に『交通安全』と夫が手書きをして、交通安全指導員と一緒に国道沿いでドライバーに配ります。今では、年間約400個を作り、バルーンフェスティバルや、お祭りなどでも販売しています。

また、町の文化祭には沢山の作品を出品していますが、最近では、生涯学習ラリーなどで子ども達にも色々教えています。

生きがいセンター手芸サークルは、毎週金曜日に生きがいセンターで活動をしています。研修旅行もあり、講師の先生をお招きして、教えて頂いたりもしています。

同世代の人が多く、また、手芸が好きな人ばかりなので、助け合いの気持ちを持ち、仲間との絆に恵まれ、健康で手芸を続けられることに幸せを感じています。

水戸 志美



# かみしほろのホットな話題

## 上士幌を守る消防団員

本町の消防団の歴史は、昭和2年4月1日に上士幌私設消防組として発足したことに始まります。以来、本町の安心・安全のため、火災・災害出動、火災予防など多種多様な活動を行い、今年で84年という歴史を数えました。現在は、鈴木近彦団長以下67名で、「町民の生命、身体及び財産」を守るため日々の訓練に励んでいます。

上士幌消防団は3分団（上士幌地区・めかびら源泉郷地区・萩ヶ岡地区）でそれぞれの地域を管轄、消防車両7台を保有し、火災・災害出動をはじめ、定期訓練、火災想定訓練、火災予防査察、応急手当訓練等を行いながら、年1回の消防演習と消防出初式で訓練の成果を披露しています。

こうした中で、火災予防普及啓発や地域の皆さんとのより密接な活動を目指し、平成22年4月1日に女性消防団が発足しました。現在、団員は8名で、女性ならではの優しさや気配りを活かし、消防団員としての基本訓練をはじめ、一人暮らしの高齢者宅への防火訪問、応急手当訓練、火災予防街頭キャンペーン、女性消防団研修会への参加等、精力的な活動を行っています。さらにこの活動を支援するため、今年度10人乗りの広報車を整備したところです。広報車の導入により、女性消防団員をはじめ全団員が火災予防広報に意欲を燃やしており、この意欲が町民に伝わり、火災のない上士幌町になっていくことを願っています。



ふれあいプラザでの啓発

### ～上士幌消防団からのお願いです！～

秋から冬にかけては、空気が乾燥し火を使う事も多くなり、全国的に火災が多くなる時期です。全国の火災原因の1位は「放火」、2位「コンロ」、3位「たばこ」となっています。どれもちょっとした注意で簡単に防げるものばかりです。また、平成18年より、「住宅用火災警報器」の設置が義務化されています。この設置により、全国各地から「大火にならなかった」「未然に火災を防ぐことができた」という報告が寄せられていますので、設置がまだの方は、お早目の設置をお願いします。



広報車と団員

最後になりますが、これからも町民が安心して暮らせるまちになるように、消防団員が一丸となって活動していきますので、町民のみなさんも訓練等で見かけたときは応援をお願いします。

これからも、火災や災害のない上士幌町を目指して頑張ります！！

(上士幌消防団)

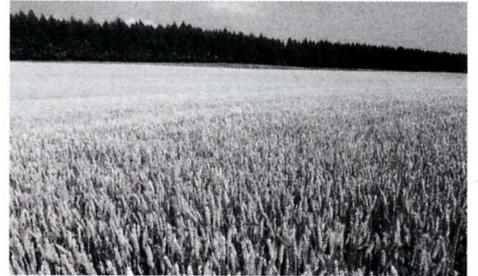
# 上士幌町の農業

収穫の秋を迎えました。ここでは、本町の畑作農業、特に本町の作付の主流となっている畑作4品（小麦、馬鈴しょ、てん菜、豆類）のことを中心に紹介します。

まず、畑作農家の季節ごとの作業の内容について、大まかに紹介します。

雪が解けた4月～5月は耕起から整地作業で、4月～5月にかけて、てん菜移植、馬鈴しょ播種作業、5月中旬から6月中旬にかけて豆類播種作業が中心となります。なお、小麦は前年の9月中旬から下旬にかけて播種を行います。

それと同時に、6月から7月にかけて病害虫防除や中耕作業（固くなった畝（うね）の間の土壌を細かく砕き、通気性を高め、除草を行う）など管理作業を中心に進め、7月下旬から8月上旬にかけて小麦収穫作業が始まり、馬鈴しょ収穫作業は、「早出し出荷」が8月上旬、本格的な収穫作業が8月下旬から10月中旬にかけて行うという2段階で行います。その合間を縫って、野菜収穫や菜豆類（大正金時など）を収穫し、馬鈴しょ収穫跡地に次年度の秋播小麦を播種します。10月上旬に小豆収穫、10月中旬から11月中旬にかけて、てん菜収穫が行われます。



秋播小麦

本町の畑作4品の作付面積は、小麦645ha、馬鈴しょ844ha、てん菜801ha、豆類810ha、それと近年、力を入れている野菜等が388haの、合計3,488ha（いずれも平成22年の作付）の作付面積を持っています。



上士幌産の豆缶詰

生産された馬鈴しょは、士幌5農協馬鈴しょ施設運営協議会（上士幌、士幌、鹿追、音更、木野）へ全量出荷し、士幌町にある撰果施設及び貯蔵庫へ集約されます。主に食用は市場に向けて全道から本州にかけて出荷され、加工用は、カルビー他、冷食、菓子

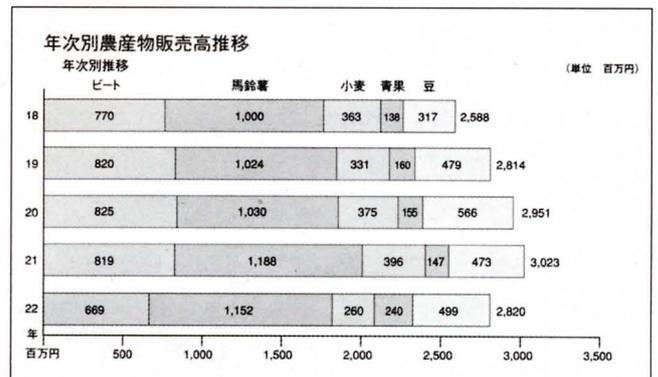
大手加工メーカーで取り引きされます。

てん菜はホクレン清水製糖工場へ出荷され、上白糖などとして、市販もしくは菓子、飲料メーカーなどで使用されます。

豆類については農協へ集荷され、共計販売もしくは雑穀卸業者へ販売しており、一部生協向けに小袋及び豆缶詰を製造し、町内でも販売しております。そして、小麦は共計販売とし、大手製粉会社へ納入しています。野菜は主に帯広、札幌の市場へ販売しています。

このように、生産・流通する作物の農産物取扱高と生産量は、小麦が2億6000万円(1,807 t)、馬鈴しょが11億5200万円(21,890 t)、てん菜が6億6900万円(39,150 t)、豆類が4億9900万円(1,036 t)、その他の野菜が2億4000万円(2,027 t)で、本町全体の農産物取扱高は28億2000万円に上ります。

近年、地産地消に力をいれており、野菜類を中心に販売にも力を入れています。新鮮で、安心安全な農産物をもっと町民の方に知って頂くとともに、消費して頂くよう宜しくお願い致します。



(上士幌町農業協同組合 農産部)